

感染症発生動向調査委員会報告 8月

《今月のトピックス》

- 成人男性を中心に風しんが流行しています。
- マイコプラズマ肺炎の報告数が多い状況が続いています。

全数把握疾患

<腸管出血性大腸菌感染症>

7件(O157 VT1VT2 4件、O157 VT2 1件、O157 H7 VT2 1件、O103 VT1 1件)の報告がありました。これらの事例の感染経路、感染原因は現在調査中です。本疾患は例年夏季に感染者数が多く、引き続き注意が必要です。

◆啓発用チラシ「O157に注意しましょう」

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/punf/pdf/o1572007.pdf>

<デング熱>

3件の報告がありました。すべて渡航先(フィリピン、インド、タイ)での感染が推定されています。近年、日本では年間発生数が増加傾向にありますが、すべて日本国外での感染で、タイ、インド、インドネシア、フィリピン、ミャンマー、ラオス、カンボジアなどでの感染が多く報告されています。

<レジオネラ症>

肺炎型2件の報告があり、どちらも尿中抗原陽性のため診断されましたが、感染の原因は現在調査中です。

<レプトスピラ症>

1件の報告がありました。観光旅行先(ラオス)での川下りによる水系感染が推定されています。レプトスピラ症は、病原性レプトスピラの感染によって発症する急性熱性疾患です。病原性レプトスピラの保菌動物の尿で汚染された環境での労働やレジャーの他、保菌動物の尿や血液に直接接触する可能性のある労働などでの感染が報告されています。感冒様症状のみで軽快する軽症型から、黄疸、出血、腎障害を伴う重症型(ワイル病)まで多彩な症状を示します。国内でもカヤックインストラクターなど、河川でのレジャー産業に従事する人達や、ネズミなどへ接触した人で散発事例がみられています。一方、国外ではブラジルなどの中南米、タイなどの東南アジアなど、熱帯、亜熱帯の国々で流行しています。詳しくは下記ホームページをご参照ください。

◆レプトスピラ症について(国立感染症研究所)

<http://www.nih.go.jp/niid/ja/diseases/ra/leptospirosis/392-encyclopedia/531-leptospirosis.html>

<http://idsc.nih.go.jp/iasr/29/335/tpc335-j.html>

<急性脳炎>

2件(どちらも幼児)の報告がありました。病原体は現在調査中です。

<梅毒>

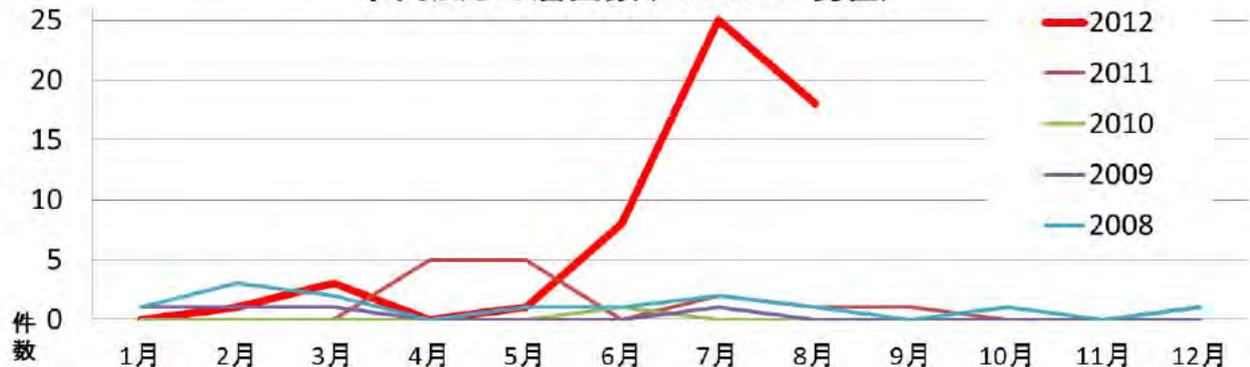
3件の報告がありました。2件は早期顕症梅毒Ⅱ期で、国内での異性間性的接触および同性間性的接

触での感染が推定されています。もう1件は早期顕症梅毒I期で、国内での性的接触が推定されています。

<風しん>

18件の報告がありました。6月下旬以降、市内の届出が急増しており、既に昨年1年間の約4倍(56件)となっています。流行の中心は予防接種歴の無い、あるいは不明の20～40歳代の男性ですが、10歳代以下でも報告されています。風しんの免疫を持たない女性が妊娠中(特に妊娠初期)に感染すると、白内障、先天性心疾患、難聴を主な症状とする先天性風しん症候群の児が生まれる可能性があります。流行を抑えるためには、女性だけでなく、男性の予防接種も重要です。

市内風しん届出数(2012.8.27現在)



◆横浜市感染症臨時情報: <http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/idsc/rinji/>

定点把握疾患

平成24年7月23日から平成24年8月26日まで(平成24年第30週から平成24年第34週まで。ただし、性感染症については平成24年7月分)の横浜市感染症発生動向評価を、標記委員会において行いましたのでお知らせします。

平成24年 週一月日対照表

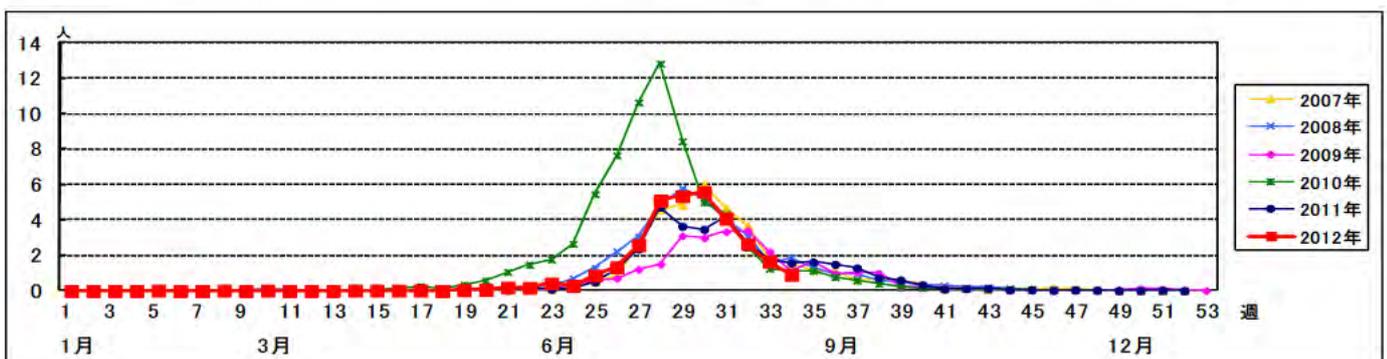
第30週	7月23日～29日
第31週	7月30日～8月5日
第32週	8月6日～12日
第33週	8月13日～19日
第34週	8月20日～26日

1 患者定点からの情報

市内の患者定点は、小児科定点:92か所、内科定点:60か所、眼科定点:19か所、性感染症定点:27か所、基幹(病院)定点:3か所の計201か所です。なお、小児科定点は、インフルエンザと小児の11感染症を報告します。内科定点はインフルエンザのみを報告します。従ってインフルエンザは、小児科と内科で、計152定点から報告されます。

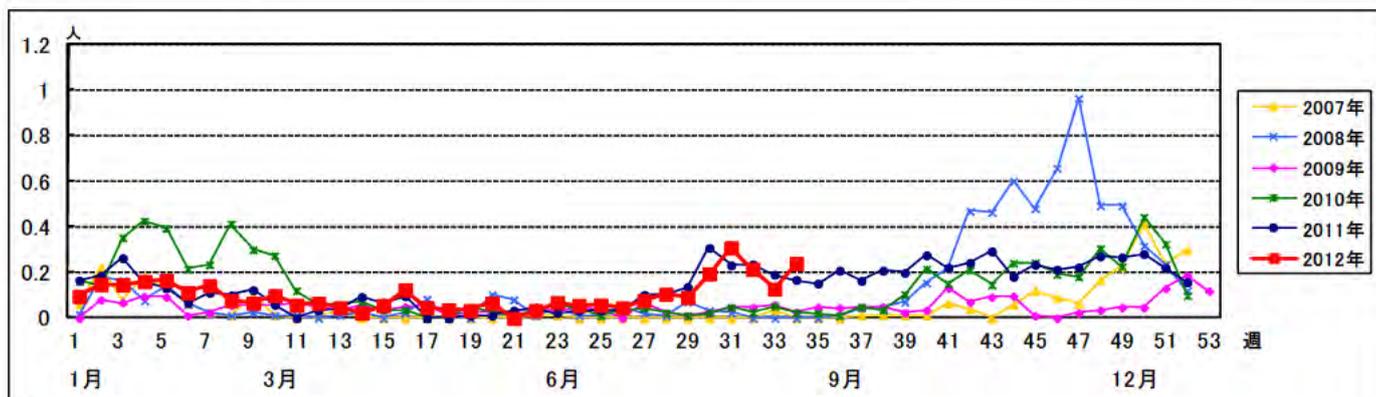
<ヘルパンギーナ>

今季の流行は市全体で第30週に定点あたり5.59とピークとなった以降は減少傾向が続き、第34週は0.91と落ち着き、今季の流行は終息したものと思われます。区別でも、警報レベルの流行は見られません。



<RSウイルス感染症>

第34週は市全体で定点あたり0.24と、大きな流行は見られませんが、最近5年間の中では比較的報告が多い状況です。



<性感染症>

7月は、性器クラミジア感染症は男性が21件、女性が13件でした。性器ヘルペス感染症は男性が6件、女性が10件です。尖圭コンジローマは男性7件、女性が3件でした。淋菌感染症は男性が16件、女性が1件でした。

<基幹定点週報>

マイコプラズマ肺炎は全国的に流行しており、特に昨年度末は1.60～1.40(例年定点あたり0.2～0.6程度で推移)と増加しました。最近では少し落ち着いてきたものの、第30週0.98、31週0.94、32週0.98、33週1.14、34週0.98と、0.80～1.00程度の報告が多い状態が持続しています。横浜市でも第30週2.33、31週0.00、32週1.50、33週1.00、34週0.00と、やや報告が多い状態が継続しています。第30週に無菌性髄膜炎2件(どちらも30代女性、病原体は未検出)、第34週に2件(どちらも幼児、病原体は未検出)報告されました。細菌性髄膜炎、クラミジア肺炎の報告はありませんでした。

<基幹定点月報>

7月は、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症8件で、薬剤耐性緑膿菌感染症、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、薬剤耐性アシネトバクター感染症の報告はありませんでした。

【 感染症・疫学情報課 】

2 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:9か所、インフルエンザ(内科)定点:3か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:3か所の計16か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は9か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。また、インフルエンザ定点では特に冬季のインフルエンザ流行時に実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときにのみ行っています。

<ウイルス検査>

8月に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点39件(鼻咽頭ぬぐい液38件、ふん便1件)、基幹定点12件(鼻咽頭ぬぐい液5件、ふん便4件、髄液3件)でした。患者の臨床症状別内訳は、小児科定点は気道炎29人、ヘルパンギーナ3人、手足口病3人、胃腸炎2人、発疹症1人、咽頭結膜熱1人、基幹定点は無菌性髄膜炎3人、白血球減少症2人、発疹症2人、急性腭炎1人、胃腸炎1人でした。

9月10日現在、小児科定点の手足口病患者1人からエンテロウイルス71型が分離されています。

これ以外に遺伝子検査では、小児科定点の気道炎患者1人からアデノウイルス1型、1人からコクサッキーウイルス(以下CA)2型、1人からCA4型、2人からCA5型、2人からエコーウイルス6型、1人からエコーウイルス7型、2人からパラインフルエンザウイルス1型、1人からパラインフルエンザウイルス2型、4人からパラインフルエンザウイルス3型、1人からアデノウイルス(型未同定)およびパラインフルエンザウイルス1型と4型、1人からパラインフルエンザウイルス1型と4型、1人からRSウイルスとCA5型、ヘルパンギーナ患者1人からCA4型、咽頭結膜熱患者1人からアデノウイルス3型が検出されています。

その他の検体は引き続き検査中です。

【 検査研究課 ウイルス担当 】

<細菌検査>

8月の感染性胃腸炎関係の受付は、基幹定点から菌株受付が6件、定点以外の医療機関等からは12件あり、腸管出血性大腸菌(O157:H7,VT2、O157:H7,VT1&2、O26:H+,VT1、O103:H2,VT1)、カンピロバクター、NAGビブリオが検出されました。

溶血性レンサ球菌咽頭炎の検体受付は小児科定点から5件で、A群溶血性レンサ球菌、肺炎球菌が検出されました。

(次ページに表)

表 感染症発生動向調査における病原体検査(8月)

感染性胃腸炎

検査年月 定点の区別 件数	8月			2012年1月～8月		
	小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
	0	6	12	0	122	60
菌種名						
赤痢菌						2
腸管病原性大腸菌					2	
腸管出血性大腸菌		1	6		3	27
腸管毒素原性大腸菌					2	
チフス菌					1	
パラチフスA菌					2	
サルモネラ					20	3
カンピロバクター			3			10
コレラ菌						2
NAGビブリオ			1			1
不検出	0	5	2	0	92	15

その他の感染症

検査年月 定点の区別 件数	8月			2012年1月～8月		
	小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
	5	0	29	67	14	85
菌種名						
A群溶血性レンサ球菌	T1			9		
	T2	2		2		
	T6			9		
	T4			2		
	T12			10		
	T25			1		
	T28			3		
	T B3264	1			4	
B群溶血性レンサ球菌			3			17
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌			26		4	26
バンコマイシン耐性腸球菌					1	3
<i>Legionella pneumophila</i>						1
インフルエンザ菌				6		2
肺炎球菌	1			3		
黄色ブドウ球菌				1		
破傷風菌					1	
結核菌						3
<i>Mycobacterium avium</i>						1
不検出	1	0	0	17	8	32

*: 定点以外医療機関等(届出疾病の検査依頼)

T(T型別): A群溶血性レンサ球菌の菌体表面のトリプシン耐性T蛋白を用いた型別方法

【 検査研究課 細菌担当 】